

1 単元名 政府の役割と国民の福祉

2 単元観

2019年10月1日から消費税及び地方消費税の税率が8%から10%に引き上げられると同時に、消費税の軽減税率制度が実施される予定である。消費税は、生徒にとって最も身近な税金であり、その引き上げは直接生活に影響が出てくる。消費税の導入の目的や、引き上げなければならない理由などを、現在の社会情勢を考え、既習事項や今後の学習内容との関連を図り、身近な問題として取り上げていくことができる単元である。生徒にとっては消費税以外の税金については、その種類や内容、使い道等についてはなじみが薄く、よく分からない現状である。消費税を考えることで、そこから税金の目的や必要性を認識し、身近な存在として捉えることができる。税金がなければ我々の生活は成り立たないことにも気づかせたい。そこで自分たちの生活を考えさせ、どんなところで税金が必要かを考えさせることから学習を始めさせた。また、東日本大震災を経験している本県の中学生にとって、被災地復興のための財源として、復興特別所得税が加算されていることにも気付かせ、我々の知らないところで安心した生活を送られるために様々な税があることも考えさせたい。

また、所得の違う中で課税の方法を考えさせることで、公平な課税の方法と逆進性に気付かせ、所得税についての累進課税の制度があり、様々な課税の仕方があり、複数の税金を組み合わせることで全体での公平性を確保しているということを捉えさせたい。更に、税額を決めることや、政府が何にお金を使うかや、財政の課題を考えさせることで政治に関わる大切さを考えさせたい。次代を担う児童・生徒が、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てていくことが必要と考えられる。既習事項である少子高齢化、国民の義務、地方財政などとの関連を図り、次時以降の社会保障や少子高齢化と財政の学習につなげ、少子高齢化社会を背負って立つ今の中学生に、日本の現在の課題を考えさせ、今後の学習につなげていきたいと考える。

3 指導計画（5時間扱い）

時間	題材名
第1時	私たちの生活と財政（税金の仕組み、さまざまな税金）
第2時（本時）	私たちの生活と財政（税金の公平性）
第3時	政府の役割と財政の課題
第4時	社会保障の仕組み
第5時	少子高齢化と財政

4 本時の指導

（1）題材名 私たちの生活と財政（2時間扱いの2時間目）

（2）ねらい

- ・租税の公正な負担について、政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。（社会的な思考・判断・表現）
- ・累進課税の方法を理解し、計算によって税額を求めることができる。（資料活用の技能）

(3) 指導にあたって

所得の違う中で課税の方法を考えさせることで、公平な課税の方法とその課題について考えさせ、所得税についての累進課税の制度があることを理解させ、様々な課税の仕方があり、複数の税金をうまく組み合わせることによって全体での公平性を確保しているということを考えさせたい。また、グループで税額を決める話し合いが、実際には自分たちの税金などを政治で話し合っていて決めていることだということを体感させたい。

(4) 評価

- ・ 租税の公正な負担について、政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断できたか。（社会的な思考・判断・表現）
- ・ 累進課税の方法を理解し、計算によって税額を求めることができたか。（資料活用の技能）

(5) 學習過程

段階	学習活動	形態	指導上の留意点	評価
導入 5分	1, 消費税の値上げについて考える	一斉	○賛成, 反対の立場を確認し, ヨーロッパの国の状況を伝え, 値上げの理由について考える。 ○軽減税率の制度について説明する。	
展開 40分	2, 本時の学習課題をつかむ 公平な税負担とは何か 3. グループでの話し合いを行う 1班5人のメンバーを課税所得100万円が1人, 300万円が3人, 1,000万円が1人の3パターンに分けて合計350万円の税を集める場合にどのように集めるかを班毎に話し合う。 4. 発表する 各班で決めた税の内容の発表する。	グループ	○低所得者の税負担について考えさせ, 既習事項である効率と公正, 決まりの評価を考え, 立場を変えても受け入れられるものになっているかを考慮した決定内容になっているかを確認する。	・公平な税負担について考えることができる【思】
	5, 累進課税について実際に税額を計算する。	一斉	○各自計算させてから, 課税所得を説明し, 税率が変わる部分について計算の仕方を確認する。	・累進課税の計算ができる【技】
まとめ 5分	6, 税の種類と税制について確認する。	一斉	○同額の税金を課す公平な税負担と, 税の逆進性について説明し, 複数の税金を組み合わせること全体で全体の公平性を確保していることを確認する。	

○租税についてのアンケート結果

①消費税の10%の値上げに賛成か

	賛成	反対
授業前	12人	65人
授業後	46人	31人

②税が大切なものだったか。

	とても大切	大切	あまり大切でない	大切でない
授業前	21人	46人	9人	0
授業後	49人	28人	0	0

③税について関心を持つことができたか

	とてもできた	できた	あまりできない	できない
授業前	4人	37人	33人	3人
授業後	27人	49人	1人	0

④選挙が大切なものだったか。

	とても大切	大切	あまり大切でない	大切でない
授業前	24人	48人	5人	0
授業後	44人	31人	2人	0

○租税の授業を終えての感想より

- ・納税をして、間接的ではあるが国に貢献していきたいと思う。
- ・急速に増え続ける高齢者により、日本の社会保障はどんどん拡大していることを知り、国の財政破綻が起これないようにしっかり国民として税を納めていきたいと思う。
- ・一人一人の意識が必要で、そのためには教育が大切だと思った。
- ・受身にならずに、税がどのように使われているかを自ら調べる必要がある。
- ・税がどのように考えて成り立っているのかを知ることができた。
- ・税は国民を苦しめるものだと思っていたが、授業の後、税は国や国民のために使われているということが分かり、税は大切だと思うようになりました。（多数）
- ・消費税の値上げに反対だったけど、国民や国のためということが分かり賛成する。
- ・消費税が上がると負担が増えるというマイナス面ばかり考えていたが、国の経済をまわしたり、公共事業のためになったりするなどプラスの面があることが分かってよかった。
- ・日本は公債金の額が多いため消費税を10%に引き上げることは賛成であるし、それによって社会保障が充実するならば、仕方のない出費だと思っていた。世論で増税反対の声が上がっているのを見て、共感する面もあったが、授業を受けて、国が累進課税などの工夫をこらして財政をまかなおうと努力していることが分かった。国民として国の社会保障と税の釣り合いを頭に入れながら、もっと意見を言うべきだと思った。頭ごなしに政治批判をする大人が多いので、もっと政治や財政についての教育を充実させるべきだと思った。
- ・選挙も大切なものと改めて知れてよかった。
- ・選挙は自分たちの意見が反映される大切なものだとすることが分かった。
- ・選挙で一人でも多くの意見を取り入れることが大切だと思った。